

第48回車座集会（麻生区） 摘録

- 1 開催日時 令和元年12月25日（水） 午後2時から午後4時まで
- 2 場 所 虹ヶ丘小学校 2階多目的室
- 3 参加者等 参加者27名、傍聴者18名 合計45名

<開会>

司会：ただいまから第48回車座集会を始めさせていただきます。

本日の司会をさせていただきます麻生区役所地域見守り支援センター地域支援課の端坂といいます。よろしくお願いたします。

今日は、令和元年度第3回虹ヶ丘地区の地域ケア圏域会議を兼ねており、「支え合いの地域づくりを進めるために」をテーマに、虹ヶ丘地区にお住まいの方々や、虹ヶ丘で活動されている皆様にご参加いただき、2025年の虹ヶ丘地域を見据えて、理想の地域に近づくためにできることについて、意見交換を行いたいと思います。

本日の流れを簡単にご説明いたします。

初めに、これまでの虹ヶ丘地域の皆様と共有してまいりました地域特性や課題についてのおさらいを、田園調布学園大学人間福祉学部、村井教授よりさせていただきます。

次に、支え合いの地域づくりを進める上で、理想の地域に近づくためにできることについて、丁目ごとに分かれて意見交換をしていただきます。

そして、そこで出た意見を踏まえて、丁目間で協力し合えることや、虹ヶ丘地域全体でできることについて、関係者様を交えて全体で意見交換する予定です。

次に、行政からの出席者をご紹介します。

福田紀彦川崎市長、多田貴栄麻生区長でございます。

司会：それでは、開会にあたり、福田市長からご挨拶を申し上げます。

<市長挨拶>

市長：皆さん、こんにちは。今日は、お忙しい中、車座集会にご参加をいただき、誠にありがとうございます。それから、この地ケアの圏域会議を、今年すでに3回やられているということですので、そういった意味では、私も皆さんから学ばせていただきたいと思いますし、何か次に確実につながるような、有意義な会にしたいと思っています。

今年、多摩区や麻生区といった北部の小学校の50周年記念が幾つもあり、ちょうど50年ぐらい前に、北部では人口が急増して、学校がどんどん建つという時代背景だったんだと感じました。当時の川崎市内の高齢化率が、何パーセントぐらいか調べたら、たしか4.5%ぐらいなんです。4.5%って信じられないですね。来年2020年は、川崎市にとっても大きな節目となる年でして、高齢化率が21%を超えると。川崎は、他都市と比べて最も遅くそこに突入する超後発隊ですが、超高齢社会と言われる世界になります。

では、こちらの虹ヶ丘はどうなっているかというと、全体では4.4%超えということですから、川崎市の全体の倍の高齢化率が、もう既にあるということです。

一方で、区長ともさっき話していたんですが、高齢化率が高くても要介護度は、他の地域から比べるとそんなに高くなく、高齢化率は高くても非常に元気な方たち、ちゃんとセルフケアできている方たちが多いのかもしれない。

これをしっかりと維持しながら、持続可能なまちにどうやってしていくかということ、私ども行政もしっかりと考えて、仕組みづくりや地域づくりをやっていかななくてはなりません、そのためには、地域の皆さんと思いを共有して、一緒に取り組まなければ絶対実現できないと思っています。今日も、いいステップの一日にできればと思っていますので、皆さんのご協力、どうかよろしくお願い致します。

<前回までの復習>

司会：川崎市では、誰もが住みなれた地域で安心して暮らし続けるために、一人一人がみずからの生活や健康を維持する「自助」と、隣近所での助け合いやボランティア団体・町会・自治会などの地域団体の皆様と連携を図る「互助」という意識を醸成して、それぞれの地域が地域の中で協力し合って課題を解決できる力を高め、地域づくりの支え合いの仕組みづくりを進めています。

こうした取組の一環として、麻生区役所地域見守り支援センターでは、地域自己診断ツール「ちいきのちからシート」を活用しています。小地域ごとの統計データや、地域資源情報を整理した「地区カルテ」を活用し、ワークショップ等で、皆様と意見交換をしているところです。

今回の虹ヶ丘地域においても、平成30年度から継続して、地域ケア圏域会議を開催し、地域の特性や課題の共有を、積み重ねてきました。本日は、今まで共有してきたことを踏まえ、これまでの振り返りの後、意見交換をしていきたいと考えています。

それでは、9月に開催した第2回の圏域会議でファシリテーターを務めていただきました田園調布学園大学の村井教授から、これまでの経過をご説明していただきたいと思います。

村井教授：皆さん、こんにちは。田園調布学園大学の村井です。田園調布学園大学は麻生区役所と連携協定を結び、地域づくりのお手伝いをさせていただいています。本日も、副学長や地域交流センターの職員が来ています。どうか、これからもよろしくお願いいたします。

今からお手元の資料をごらんになっていただきながら、お伝えしていきたいと思います。

まず、これまでの経緯として、「虹ヶ丘がこんな街になったらいいな」をテーマに理想像を共有を目指し、平成30年度に3回の協議を経て、理想像が見えてきました。

また、令和元年度は、一丁目から三丁目まで、それぞれの「地域資源・支え合いマップ」というものを作成し、今度はハード面として、さまざまな建物や道、いろいろ集まる場所などを共有する機会にし、課題や資源を「見える化」させることで、具体的な生活上の課題も見えるようになりました。

そんな中で、「ちいきのちからシート」という地域の力を「見える化」させるものや、地域の資源を「見える化」させるというツールを加え、ソフト面での地域特性とか地域課題の可視化と共有をしてきましたので、具体的にご説明していきたいと思います。

まず「虹ヶ丘がこんな街になったらいいな」という取組が、平成30年度、全3回行われました。最初は自治会の防災・防犯の取組を共有化しながら、一丁目、二丁目、三丁目それぞれの特性があるが見えてきました。第2回は、虹ヶ丘一丁目の虹ONE CLUBが、地域見守り活動を行いはじめていますので、そこから見えてきた意見交換を行いました。第3回は、地域住民が考える虹ヶ丘地区全体の理想像の共有化という部分で「虹ヶ丘がこんな街になったらいいな」というテーマと、一方で「こんな街になったら嫌だな」というテーマで、意見交換をしました。

令和元年度は、虹ヶ丘全体を示したマップの上に、さまざまな生活上の課題とか資源の情報とかを落とし込んで、「今、どんな虹ヶ丘なんだろうか」ということを、ハード面から確認して、ここで見えてきた内容が、次の資料です。

まず、全体の感想として、こういうマップを使うことにより、物理的な面からの生活課題などが見

えるようになったというところから、一丁目は、60代から70代の比較的若い世代の参加者が、サロン等に多いこと、虹ヶ丘公園では桜祭りや公園ウォークが開催され、災害用の応急給水拠点や防災倉庫もあり、おやじの会の協力もあって、防災に関してだんだん強くなってきたことですね。一方で、抜け道として利用されていて、道路交通が激しく危ないこととか、防災意識は高まっているけど、訓練は本格化していないことなどの意見がありました。

二丁目は、集会場の前の中央公園で、地域活動やイベントが非常に多く行われていて、子どもたちもよく遊んでいるし、虹ヶ丘コミュニティルームで、おやじの会やコロバネーゼ、いろんな取組が実施されていて地域活動は活発というようなところが見えてきました。さらに一丁目にある虹ヶ丘公園の少年野球場は緊急ヘリポートになっていて緊急時にも対応力があるよとか、エリアに対してちょっと危ないと思うところに手すりをつけて、安全に移動できるようにしたとかですね。一方で、坂が多いとか、団地エレベーターは特定の階にしかとまらないので、うまく運用できない部分があるとかのハードウェア面から課題も意見がありました。

三丁目は、「どっこいシニア」ですね。団地住民で構成しているどっこいシニアという取組で、小学生の登下校を見守っていること、里山を守る会や、いろいろ炭焼き等をやっていて、住民の活動が活発になっている。課題としては、やはり、団地エレベーターがないということによって移動の大変さなどがあるということ。

ハードウェア面が中心ですが、エリアを活かした住民同士の交流と、一方で具体的に移動をしようとする、その移動に対して特に高齢者や障害のある方々の課題が残っていることが話し合われました。

そんな中で、皆さんの地域がどんな地域なのかというのを、質問を通して可視化するという取組をし、「ちいきのちからシート」に強みと弱みをまとめました。一丁目は「地域参加」、「地域拠点」、「地域愛着」がすごく高い。地域の困りごとの解決に取り組むことができると答えた人が非常に多いので、何とかしていきたいという気持ちはすごくあると。防災訓練は、現時点ではないけれど、これはやらなきゃいけないというふうな、みんなの意識が高まってきているというのは、こんなところからも見えています。二丁目も「地域参加」、「地域拠点」、「地域愛着」が高いことに加え、防災に強いこともあって、治安がいいと答えた人の割合が大変高く、二丁目の頑張っている取組が安心につながっていることがわかる結果となりました。個々のつながりや地域への関心、愛着、自助力はあるが、地域の団結力は、なぜか低めと答えている部分もあるように見えてきています。

また、三丁目は、同じように「地域愛着」、「地域参加」、「地域拠点」というのが出てきていますが、多様なつながりがあって、他地域と比較すると団結力も高めという結果が出ています。高齢化率が高いせいとか、ご本人たちの意見からすると、一人一人の「個の力」が、まだ十分に活かせていないというような意識があるようです。これも一つの尺度で見た地域の特性です。

平成30年度と令和元年度の取組によって、支え合いの地域づくりを進めるために、一丁目から三丁目、それぞれで取り組むべきテーマが見えてきました。今日は、そんな見えてきたところを通して、福田市長や区長の力もお借りして、さらに具体的に理想とするゴール到達に向けて、何ができるのかというところを少しでも明確にしていくことが、大きな目的となります。

まずは、それぞれの丁目の特性を生かした目標設定と、具体的な方策。次にオール虹ヶ丘で、やっていけそうな取組を整理し、個々の地域の強みを活かしつつ、オール虹ヶ丘で何ができるかということが明らかになっていけばいいなと思っています。

私が長年、地域福祉をやってきた中で見えてきたことですが、人や地域に関心を持って、皆さんが本日ここに来てくださるように、地域を知る機会に積極的に参加し、地域について考えたり、話し合ったり、地域の強みを高めようとする中で、共通の課題や理念、目標が見えてきて、お互いの個性や

強みなどもわかって、相互に理解し合いながら、一緒に活動したり、励まし合ったり、ときにはぶつかり合ったりしながら、身近な人たちの支えを行って、ときには仲間に支えられて、ありがとうと言ってもらえたり、言っていく。そんな取組の中から、互いがかけがいのない隣人であるということを実感して、やがて、強いつながりや絆となり、みんなと出会えてよかった、本当にここで暮らしてきてよかった、これからもここで暮らしていきたいと、強く願うようになっていく人たちに会いました。

担い手になってくださる方の声は、みんな、こういう言葉に集約されていると思います。ぜひ、すてきな虹ヶ丘にますますなっていたくために、多くの方々のお力を借りて、皆さん、主体的に意見を述べていただければと思います。ぜひ、ここに住んでいてよかった、これからもここに住み続けたい、すてきな虹ヶ丘づくりに向けて、皆さんで力を合わせて、楽しく頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

<意見交換>

司会：続きまして、意見交換に移りたいと思います。

皆様には、事前に虹ヶ丘がこんなまちになったらいいなということをもとに、各丁目ごとに地域の理想像を伺っており、その結果として、一丁目は「虹ONEプロジェクトを通じて繋がれるまち」、二丁目は「会話の多いまち（地域の活性化）」、三丁目は「若い人が参加したくなる自治会があるまち」ということを、テーマにしました。

具体的にできそうなこと、今からできること、2025年に向けてできることについて、意見交換していただきたいと思います。

その後、各丁目から出た意見を踏まえて、丁目間で協力し合えることや、虹ヶ丘全体で取り組めることについて、関係者の方も含めて意見交換をしていきたいと思います。

ここからは、全体のファシリテーターは、福田市長にお願いしたいと思います。また、村井教授も、アドバイザーとしてご参加のほうをよろしくお願いたします。

(意見交換)

市長：それでは、一丁目から発表をお願いします。

吉垣さん：虹ヶ丘一丁目、虹ONE CLUBの代表をさせていただいている吉垣です。

虹ONE CLUBを通じてつながれるまちを実現するために、私たちにできそうなことをテーマに意見交換しました。短期でできることとして、まずは、まだ虹ONE CLUB自体を知っている方が少ないので、虹ONE CLUBの周知。ジャーナルという情報誌をつくっていますが、不定期なので、まだ1回しか出していません。2回目を出すのは来年1月に全戸配布予定にしている、虹ONE CLUBを知っていただく機会になるかなと思っています。

この虹ONE CLUBを通じて、まずは、自治会の防災組織をつくって、虹ONE CLUBだけではなく、今、自治会はどうなっている、まちの中がどうなっているという情報を、すぐに周知できるような手段として、メーリングリストを作ろうという意見が出ました。

さらに、多世代間の交流がすごく少なく、虹ヶ丘一丁目自治会のイベントは納涼祭と餅つき大会の二つしかなく、一、二、三丁目の方で構成されているおやじの会でやっている桜祭りをあわせても、多分、大きなイベントとしては、この三つしかないのもっと多くできるといいなと意見がありました。一、二、三丁目の合同でできれば夏祭りを実施できるといいなと思っています。

いろんなものが出ましたが、6年後、本当は虹ONE CLUBがなくてもお互いに見守れるようなまちを目指したいなと思っています。大きく言うと、私たちが目指したいのは、サザエさんのまち。

買い物して帰ってきて、「あら伊佐坂さん、どちらにお出かけですか」と、お互いの顔が見えるような、声かけができるようなまちができればいいなというふうに思っています。

市長：ありがとうございます。すばらしい発表でした。それでは、二丁目、お願いします。

松田さん：二丁目の発表をいたします。自治会長、副会長を招いて、アドバイスをいただきながら、ディスカッションをしました。

まず、理想も可として、具体的に取り組みそうなことは、健康体操を集会所でやりたい。これは、交流の場になります。ほかの地域では、やっていますが、二丁目集会所では、まだやっていないので、ぜひやりたいという願望を出しました。

つぎに、市政だよりを各戸配布できる人材確保とボランティア。集まっておしゃべりしながら、若い世代を引き込む。URが高齢化してきていますので、若い人たちが引き込めればと思います。

30代から50代の要望を聞く機会づくり。世代交代。それから掲示板。URでないものでも、住民の声を聞きたいので、出したいという意見もありましたが、若い人たちは、SNSで情報を見ているので、公共的なこととか、URの関係していることを、掲示しようじゃないでしょうかという意見が出ました。

それから、挨拶をかかわすこと。「知らない人と話さない」というのは、学校で言われていますが、挨拶のできるまち。

それから、二丁目健康体操グループを立ち上げる。これはもう、会長さんから了解いただきました。

それから、副会長から出た意見ですが、スーパーまで連れて行ってくれる無料バス、企業との協力、これが団地内にも来たらいいなということを望まれました。

2025年、6年後までにできることですが、SNS、ICT、虹ヶ丘情報発信、住民の交流の場を発信していきたいと思います。これは、2030年ごろになるだろうと、会長の意見でしたけれども、なるべく早く、そんな時代になりたいと思います。以上です。

市長：どうもありがとうございました。それでは、三丁目、よろしいですか。

高見さん：三丁目町内会で話したことをお話しします。具体的な取り組みそうなことと、今からできることの見解として、次のような意見がありました。

自治会・役員会の仕事をもう少し楽しいものにしてほしいこと。町内会と自治会の行事を一緒に取り組むこと。子どもが高齢者の家を訪問すること。あと、フリマ、音楽イベント等の開催。もう少しコミュニティルームをオープンしてほしいこと。今は登録制ですが、それ以外に一般の方への開放もお願いしたいです。

最後に、6年後ですが、イベントを通して、例えば音楽イベントとか、それを毎年続けていきたいなという話が出ました。

また、三丁目だけでなく、一丁目、二丁目の皆さんと一緒にできることがあったらいいなという話にまとまりました。以上です。

市長：どうもありがとうございました。

最後、三丁目からは、すごい、いい言葉が出ましたね。三丁目だけではなく、一丁目、二丁目とも取り組むことができるようになりますとすばらしいと思います。ありがとうございました。

それぞれに、ちょっとコメントしたいところもありますが、今日は関係者の方もきていただいていますので、最初に伺ってみたいと思うんですけれども、よろしいでしょうか。

永井さんは、この圏域会議、何回も出ていただいているんですよね。その立場から、少しコメントをいただけますでしょうか。

永井さん：麻生区社会福祉協議会の永井と申します。圏域会議には、平成30年度から、ずっと社協という立場で参加させていただきました。

それぞれ、一丁目、二丁目、三丁目、人口の状況だとか、そういう数字的なデータも大事ですが、それぞれでお住まいの方たちが、一つのグループの中の目標を設定して、その中で具体的にどうしていくかという、そういう生の声というのは、やっぱりすごく大事だと思います。

一丁目では、「多世代」がキーになっていて、データを見ると、20代とか10代の人の人口割合が結構多いですね。多分、世帯の住んでいる方の状況かなと思うんですが、若い方もいらっしゃるという意味では、多世代というところで、一丁目、二丁目、三丁目、三丁目が合同で何かできるようなものがあると思いました。

また、二丁目は、データ上、ひとり暮らしの方がすごく多くて、今回の設けたテーマも、それに関係しているものなのかなと思っています。健康維持のために、健康体操ができることは、すごくいいと思いますし、実際、地域の中で30代から50代の人の意見を聞くというのは、また、すごくいいアイデアだなと思いました。

三丁目は、割と10年以上で住んでいる方が、すごく多い。多分、昔から住んでいらっしゃる方も多くて、町会、自治会が二つあるような形ではありますが、音楽のまちですから、音楽をキーワードに、合同で何かできるといいかなというふうに思いました。

市長：どうもありがとうございました。もう一人、ご意見を伺いたいと思います。

URさんの話が幾つか出ていましたが、URさんも、いろいろお困りごとだとか、ご相談など、いろいろのっていただいていると聞いています。URの馬場さんに、どんなご意見が寄せられているのかなとか、どんな困りごとが寄せられていますよというふうな話も加えていただければ助かります。

馬場さん：UR都市機構の馬場と申します。平成29年12月から、地域医療福祉拠点化ということで、虹ヶ丘二丁目団地に、よりよく長く住んでいただく取組のなかで、ハード面は難しいですが、ソフト面でご協力できないかということで、地元の皆様、麻生区の地域ケア推進課様のご協力もあり、先進的な取組として、10月に、生活支援アドバイザーという者を置かせていただきました。二丁目団地の高齢者の方で、例えば、「足が不自由なのでちょっと困るわ」という方に下の階に移転していただくとか、ご主人さまが亡くなられて、「ちょっと広いお部屋は困るわ」といった場合に、小さいお部屋に移転していただくような、そういったご相談ごととかを受けられるアドバイザーをつけさせていただきました。

10月からつけさせていただきましたので、まだ、皆様にはお顔も覚えていただけてない状況ではありますが、これから顔を覚えていただくためにも、小さなイベントみたいなものをさせていただいて、少しずつ地域の中に溶け込ませていただきたいと思います。

市長：ありがとうございます。今は二丁目を対象に、ご相談に乗っているということでありましてけれども、例えばイベントなどは、今後、虹ヶ丘全体というふうな捉え方でもいいのでしょうか。

馬場さん：一応、二丁目団地の方を対象にはしていますが、もし、ご都合がつけば来ていただいても構いません。

市長：ありがとうございます。URさんとしても、こういう取組は初めてと聞きましたが、たしかにこういう取組って珍しいんじゃないかなと思います。こうやって、持続可能なまちにしていくためにはどうすればいいのかということ、URさん自身がお手伝いしていただくというのは、すごい先進的な取組で、こういう形で、二丁目もそうですけれども、一丁目、三丁目、あわせて全体のエリア価値、あるいは地域の持続性という形で、みんながタイアップしていくということが、すごく大事なんじゃないかなと思わせていただきました。どうもありがとうございました。

さて、一丁目の、2025年の理想の姿、「サザエさんのまち」。非常にわかりやすい。「伊佐坂先生、こんにちは」というような、誰が会っても顔見知りになっていると。虹ONECLUBという取組でやっているけれど、名前とか組織にこだわっているんじゃなくて、そういうまちになっているために、今、何ができるかということをお話しいただいたということですね。

先ほど、村井先生の発表から、これまでのまとめで、僕は意外だなと思ったのは、一丁目は防災については強いというふうに書かれていたんですが、防災訓練をしたことがないとなっていて、あれと。どういうことなのか、どなたか教えていただけますか。会長、よろしいですか。

松本さん：毎回、案内があり、角山会長からも、合同でやらないかとかという話もいただいているところですが、毎年、役員、会長、担当を総入れかえをしているため、意識的な部分が継続できておらず、実現に至っていません。

市長：ありがとうございます。実は、麻生区では一年交代で自治会長さんが代わるというのが、他区に比べて非常に高いという特徴があると思います。

ですから、思いのある人がいて、「よし、計画しよう」と軌道にのってきたころには、次の人になって、なかなか伝わらないということが課題となっているということだと思います。

そんな中で、ここでちょっと聞き耳を立てたんですけど、松本会長、3年目も継続していただけるというふうな話を聞いたので。これはすばらしい。

ただ、これは会長だけじゃなくて、周りの人たちも、やっぱり一緒にやっていってもらわないと、なかなか。

松本さん：そこが難しい。

市長：そこが難しいところですよ。三丁目の方々から、違うご意見が出ていました。継続していくために、専門部会の話がありましたね。専門部会の話、ちょっとしていただいてもいいですか。

三枝さん：自治会の役員になる人は、みんな、負担が大きいみたいなので、楽しいイベントを考える専門部会をつくれたらいいねという話が出ました。

市長：なるほど。地域の人材で、例えば、「楽しいイベントなら、1年じゃなくて複数年でもやれますよ」と、そういう専門部会ができるんじゃないかというお話ですよ。

三枝さん：そうしたら、若いお父さん、お母さんも入ってきて、子どもと一緒に楽しめるようなものを、何

か考えてくれたらいいなという話です。

市長：なるほど。こういう専門部会方式というのは、あり得るんじゃないかなと思うんですね。何か、テーマごとに。本当にきつい仕事は、なかなか自治会の仕事でも請け負えないんだけど、こういうことだったら、ちょっと協力できるかもしれないという。

一丁目では、班体制をもうちょっと強化しようという話がありましたよね。このことについて、補足していただけますか。班の話。

恐らく、こういう話って、虹ヶ丘だけの話じゃなくて、全市的な問題なんです。持続性を確保するというのは。

児玉さん：今、一丁目は、基本的にブロック単位で班ができていて、そうすると背中合わせの家同士が同じ班に所属することになりますが、ストリート単位で、ストリートで向かい合っている家々を一つの班にしたかどうかという、半分理想的な話をさせていただきました。

そうすると、顔が見えやすい。一つの班の中で顔が見えるような関係になって、いろいろ会話も進むし、自然と見守りができるんじゃないかということ、考えてみました。

市長：確かに。背中合わせだとなかなか見えにくいけれども、向かい合っているところを班にしたほうがいいと。これ、素晴らしいアイデアだと思いますけど、村井先生、どうですか。

村井教授：一丁目の防災に強いという話を、ちょっと補足させていただきたいんですが、インフラは比較的充実しているのに対し、それを使いこなす人材育成が、まだ間に合っていないという感じがあるというところなんです。

今のストリート単位の話は、実は、私たちと一緒に見守りプロジェクトをやっている三井百合丘第二地区自治会さんが、来年の4月からストリート単位の班構成に変えるということで、それを、一丁目のみなさんがすごく大事なことだと思って、何とかできないかと考えてくださっているところです。

市長：なるほど。ありがとうございます。やっぱり、ノウハウがどんどん広がっていているんですね。

村井教授：そうですね。

市長：ちなみに、二丁目、三丁目の皆さんは、棟単位の班編成とかになっているのでしょうか。

角山さん：二丁目は棟単位です。

榎本さん：三丁目は階段で一つの区切りみたいになっています。

市長：そうですね。そういうアイデア、実はこういうことをやっていたんだというのが、ほかの自治体では非常に役に立つという話が多いので、ぜひ、これをインターネットなんかで見ているほかの自治会・町内会の人たちも参考にしていただければなと思うんですね。

実は、もう2カ月以上経ちますが、台風19号の被害で、大変多くの被災地域が出たわけですが、自治会・町内会がすごくしっかりしているところは、復旧の立ち上がりがすごく早かったです。会長さんのリーダーシップが非常に効いていまして、例えば、災害ごみをどんな順番で出していく

かという、みんな一斉に瓦れきを出してしまうと、そこで詰まってしまって、結局、外の大きな通りに一切出せないという状態になってしまうところを、住民同士の地域力で、近い人からまず出していこうと、順々にやっていこうというのをリーダーの方がどんどんやっていただいたところというのは、ものすごく復旧が早かったです。

ですから、持続性の高い、平時の取組もすごく大事ですが、いざといったときに、本当に命を守る組織になると、人のつながりになるということを、改めて感じさせてもらいました。ですから、この感覚を、どうやって、一人一人の住民の皆さんに伝えていくことができるかと思うんですね。

斎藤さんは、民生委員でご活躍をいただいておりますけれども、そのあたりの感覚って、日々、感じておられるんじゃないかと思いますが。

斎藤さん：民生委員として、主に高齢者を見ていますが、自主防災も三丁目はしっかりやっていて、ちゃんと班が決まっているんですね。私も、一応、班の担当として入っていますが、そういう高齢者のほうを回りながら見ております。

市長：ありがとうございます。課題などもいろいろと感じておられると思うので、みんなでシェアしていただけるといいですね。

ちょっと、地域のつながりの話、どういう単位でやっていくかというのもありましたが、それぞれ町会で、いろんなイベントを、既にやっておられるということなんですが、聞いたところによると、丁目ごとにそれぞれの自治会でやっていて、他の町会と一緒にやることとか、あるいは見に行ったりということは、あまりないという理解でよろしいでしょうか。

角山さん：そんなこともないです。

主催そのものは各自治会ですが、開催日がみんな違いますので、お互いに行きたい人は、結構な数が行ったり来たりしています。

市長：どうですか、認識としては。例えば、三丁目さんのマラソン大会とかは。

梅津さん：それは三丁目だけで、すすき野さんと合同で実施しています。

市長：市域を超えて青葉区のすすき野の自治会さんと一緒にやっているんですか。

市長：二丁目、一丁目は、マラソン大会に参加していますか。というか、知っていましたか。

いや、私、虹ヶ丘の地域って、市内の中でも極めて珍しくコンパクトに、すごくきゅっとまとまった、いい地域だと思うんですよ。どこでも歩いて行けるし、本当に近いですもんね。どこかに集まろうと思ったら、小学校に集まれるし、地理的に、こんなにまとまった地域って、なかなかないだろうな。ですので、「それは知らなかった」というのが意外というか、ちょっと残念な部分はありますよね。もっともっとお互いのことを、知れたらいいのに。だから、みんなができるイベントなり、取組というのが、もっとあればいいかなと思いました。

例えば、ほかの地域で、こういう車座集会なんかをやりますと、最近、非常に集まりやすいというのは、「防災」と「食べ物」というかけ合わせが、非常に人を集めています。なかなか、防災訓練をやっても、お子さんたち、若い世代の参加率は上がってこないことが、どこの地域でも課題になっていて、それを克服する取組が、いろいろなところでちょっとずつ始まっています。

ですから、別に防災食を買うのではなく、今、家にあるものを、どうやってうまく活用しますかという料理を、子どもさんたちとお母さんたちとも一緒に交えてやりましょうという、市内のNPOの方が、ほかの地域にも出張していただくという形で、まず多くの人に出てきてもらおうと。そこで、一緒に防災の取組をやってみませんかということができればと思います。理想の形は、それぞれの地域で細かい単位でやるのがいいんですが、虹ヶ丘ぐらゐのサイズだと、避難所といたら、虹ヶ丘小学校という形になるわけですし、このエリアであれば、合同の防災訓練も十二分にあり得るんじゃないかと思いますが、けれども、会長、どうですかね。

角山さん：一丁目も三丁目も1年で役員が全員交代しているなかで、さきほど一丁目では松本さんが3年目ということ。

単に私が長くやっているだけなんです、15年ぐらゐ前に、虹ヶ丘小学校の30周年とコミュニティの5周年を兼ねて、虹ヶ丘小学校の校庭で夏祭りを、小学校PTAも交えてやったことがあります。そのときは、夕方から防火の集いをやって、夜は盆踊りをやって、最後にサプライズで打ち上げ花火を上げました。小学校40周年のときにも計画しましたが、いろいろデッドロックが出て、実現までは至らなかったということです。

また、おやじの会で実施している桜祭りなんです、あれも一種の防災訓練だと、私は捉えています。3自治会の防災器具そのものを全部供出していただいて、テントを張ったり、発電機を使ったり、炊事道具を使ったりすることで、これはどこが持っている物だということ、なるべく皆さんに見てもらって、一人でも二人でも設営のときから参加していただくことで、防災訓練とは銘打っていませんが、防災訓練の要素もあると思っています。

市長：三丁目も、単年度で役員は代わるんですね。複数年になるという可能性はありますか。

斎藤さん：ないです。

市長：ないですか。なるほど。なかなか厳しいですね。

単年度でやると、みんなで何かに関わってくことで、全員が地域の実情を知るという意味では、いい側面もあるんですけども。そういう意味で、どうやって継続性を維持するかというのは、一つの課題ではありますよね。さっきの専門部会みたいな、まず楽しいところからという話もいいと思います。

ところで、梅津さん、ここで聞き耳を立てていたら、虹ヶ丘のコミュニティルームのお話で、私も見学させていただきましたが、すごくいいお話をされていて。

実は、川崎市全体で、小学校の特別教室をどうやったら開放できるかなということ、今年3校をモデルケースとして挑戦しようということをやっているんですけど、虹ヶ丘は、もっとすごい前から先駆的に取り組んでいて、ものすごくかけ離れて本当にフロントランナーだったわけですが、今、課題としてすごく出てきているというような話をされていたので、ちょっと、今までと観点は違いますが、お話しいただけますか。

梅津さん：コミュニティルームは、全部自主運営で、皆さん、ボランティアで運営されているわけですが、私も含めてみなさん高齢化で、なかなか体力的に厳しい面も出てきて、後継者をいかに育てるかが課題になっています。また、利用者は登録制になっていますが、今まで、久野さんのような方が先頭に立って、いろいろお骨折りいただいた結果、現在100団体ぐらゐが登録されており、活発に使われ

ている一方で、残念ながら、利用者が固定されてしまう課題がありますので、もっと、ふらっと楽しく参加できるような形を考えていかなきゃいけないんじゃないかなと思っています。

先日、ごはんの会という団体が、高齢の方に昼食を提供し、楽しく話し合うという企画のなかで、本格的な音楽を聞かせるということを実施されたようでして、大変好評だったようです。こういうことを、きっかけにして、もっと広く認知するようなルームにしていけばなと思います。

市長：なるほど。コミュニティールームは地域の核となる拠点だと思います。久野さんのお名前も上がっておりますので、久野さんからもよろしいですか。

久野さん：コミュニティールームの久野と申します。コミュニティールームができてから20年ですね。今、梅津さんから指摘があったように、世代交代が難しくなっている課題があります。個人利用に関しては、相談があればいつでも対応はできると思います。実際に「虹のかけはし」という新聞を、毎月2,800部発行しており、ご覧になった方たちからのお電話ということは、多々あります。

これも、地域の情報発信の場になればなと思ってやってきておりましたが、それが続くか確かに困難になってきてはおります。

市長：ありがとうございます。このコミュニティールームの取組は、すごくすばらしい取組だと思いますが、なかなか次の世代の、お世話する方というのが非常に難しくなってきたという課題があるということですよ。

登録団体の方は、個人も、決して制限しているわけではないけれども、なかなか新規で入ってくるという形にはなっていないということなんですね。

コミュニティールームは、結構使われていますか。山村さんとか、いかがですか。

山村さん：一丁目の山村です。コミュニティールームは、私も「ごはんの会」でお手伝いさせていただいているのと、コロバネーゼの会があって、地域の方や高齢者の方にコミュニティールームに来ていただいて、使っています。

ほかにも、色々な会があると思いますが、コミュニティールームは開かれていますよと、一般の方になかなか情報が流れないんですよ。新しく来た方は、月1で発行されている「虹のかけはし」に対して、どれぐらい集まっているのかなど、なかなか周知できていないかもしれません。

さっきの梅津さんのお話にありましたが、ちょっとお仲間同士ができていなかで、新しく入っていくというのは難しいのかもしれないですね。

市長：今、モデル校3校で始めようといっている仕組みですが、基本的に登録制はやめようとしています。登録制なしの場合、施設の空き状況等の情報を、どうやって知らしめていくのかという点について、余りお金をかけられないので、その基盤をどうやって作っていくのかという課題があります。もし、そういう仕組みができれば、ぜひ、虹ヶ丘の小学校のコミュニティールームでも一緒に使ってもらって、もっといろんな形で、皆さんに使い勝手のいいものになればいいんじゃないかなと思いますので、それはまた、情報提供をさせていただきたいと思います。

さて、今日は関係者として、他の自治会・町内会からも来ていただいており、岡本会長も王禅寺から来ていただいておりますので、少しコメントをいただけますか。

岡本さん：王禅寺町会の岡本です。王禅寺町会は、百合ヶ丘駅から東柿生小学校までの非常に大きい縦長の

町会です、こういうまとまった町会がうらやましいぐらいです。うちの町会としては三つに分けており、その中でそれぞれの特色ある行事をやっています。

先ほど、話があった若い世代との交流ということで、王禅寺町会では役員25人、委員さんが59人おり、役員の補佐としてどんどん若い人を入れてほしいという話が出ています。ただ、そういっても、定年も延びている時代ですので、できるときにお手伝いしてくれる人を入れようということで今、進めている最中です。

それと、先ほど、班の区分を向かい合わせにしようという意見がありましたが、やっぱり防災の面から考えて、すぐ相手の変化が見えるほうが良いとのことで、実際に防災の班編成を見直しているという町会の話も聞きました。

また、イベントでは、各地区でそれぞれ特色あるイベントをやっている中で、最後には王禅寺町が一つにまとまるというふうに動いているところです。

市長：ありがとうございます。岡本会長から、これだけまとまっているのはうらやましいというお話がありましたけど、自分たちの地域を余り客観的に見ることって難しいですが、ほかのところから見ると、うらやましいエリアだと思うんですね。

いろんな課題にあるとしても、そういうエリアだということを、みんなで共有できればと思います。

ちょっと大きな話でいえば、今、世の中はそれぞれが異なっていることを、殊さらに違いを際立たせて、これが困った、あれがいけないんだというふうな話になる傾向もありますが、一丁目、二丁目、三丁目、それぞれ事情は異なっているとは思いますが、せつかく、この虹ヶ丘という地域に住んで、終の棲家として一緒に暮らしていこうというところなので、その共通点のもとで、みんなで何が共通していることなのか、何が一緒にできるのかということにベクトルを向けて、話し合っていたほうが、持続可能なまちになっていくんじゃないかと思うんですね。

それぞれ、2025年頃にはできるんじゃないかとか、いろいろお話がありましたけれども、私はいろんなところでこういう会をやらせていただいている、意外と近くても知らないのは、実際に行ってみていないからということが、いっぱいあるんですね。ですから、まずは、それぞれのイベントに相互乗り入れて、まずは、ここにいらっしゃる方たちが行ってみませんかというのは、どうですかね。

マラソン大会や音楽イベントに、見に行ってみましょう。三丁目のイベントの日に、少なくともここに集まっている人たちプラスアルファの人たちで、二丁目の人も一丁目の人も見に行ってみませんか。そうすると、必ず参考になったり、あるいは、これは一緒にやろうよということが出てくるかもしれないと思います。

吉垣さん、どうですか。むしろ逆に、一丁目の虹ONEプロジェクトも、みんなに見てもらいたくないですか。

吉垣さん：虹ONE CLUB自体は、まだ小さなグループですが、虹ONEの「ONE」って一丁目という意味だけでなく虹ヶ丘全体を1つにするという希望でもある「ONE」なので、見守りの基本的な体制などが構築できれば、ほかのところでも使えればいいなというふうに思っています。まだ、できあがっていないので、ちょっとお見せするものが限られているのですが、ほかのところ、イベントがあれば見に行きたいなと思います。

市長：ありがとうございます。虹ヶ丘といえば、「コロバネーゼ」の取組も結構有名ですが、「コロバネーゼ」をやっている方いらっしゃいましたら、ご紹介していただいているいいですか。

林さん：区役所の方をお願いして、みんなで高齢者を呼んで体操を行っています。もう、17年ぐらいになりますが、月2回、コミュニティルームを利用して活動しています。

市長：ありがとうございます。山村さんは、違うところで活動されているんですか。

山村さん：林さんは先輩でして、同じような形で、月2回、ヴィラージュの交流室を使って活動しています。第1と第3がコミュニティルームでやっていて、私のところは無料レッスンをヴィラージュにお願いして、第2と第4を虹ヶ丘一丁目コロパネーゼという名称でやらせていただいている、あちらとこちらでやると、毎週体が動かせるということで、どちらもいらっしゃる方もいらっしゃいます。私も林さんのほうでもやっていて、結構、週1体を動かすことと、ヴィラージュまで歩いて来るということが大切だと感じています。

市長：なるほど。それはすばらしいですね。ほかに、独自でこんなことをやっているよということで、ちょっと紹介していただけるようなイベントみたいなものってありますか。ぜひ、うちのこれを見に来てほしいというものってないですか。

団地カフェ。千葉さん、御説明お願いできますか。

千葉さん：団地カフェが始まって、七、八年経ちますが、最初は、区役所の方々によって、まちおこしをやったらどうかということで始めましたが、今日まで続いていて、今日、このカフェが有名じゃないということがわかって、要するに近所の方が出ていないということなので、誠に残念だと思ったところです。まちおこしの先駆者であったと思うので、その点は今後、こういうところへ出て、いろいろと意見を述べてもらいたいと思っています。

市長：ありがとうございます。三丁目にも、こういう団地カフェみたいなものって、あるんですか。

斎藤さん：三丁目にはないですが、スタッフとしては、二丁目さんのお手伝いをしています。

市長：なるほど。やっぱり、重なっている部分と、重なっていない部分とがあって、「人」でもって重なっているんですね。斎藤さんのように、スタッフで行っていたり、山村さんは一丁目コロパネーゼをやっていたり、同じ取組だったり、重なりあって人でつながっているというのは、やっぱりコンパクトにまとまっている地域の非常に大きな特性かなと思います。ぜひ、せっかくですから、それぞれの取組を、もう少し深く、みんなで見に戻ってみようというのが、次の具体的な展開につながっていくんじゃないかなというふうに気がしているんですけども、児玉さん、どうですか。

児玉さん：一丁目の児玉です。私は一丁目、二丁目、三丁目の関係なく、虹ヶ丘地区でウォーキングの会をやっていますが、知っている人は知っているが、知らない人は知らないということで、なかなか参加者が増えないという悩みがあります。そんなことで、いろんなところを見に行っていたらいいということにあわせて、ウォーキングの会も見に来てもらいたいと思っています。

市長：ありがとうございます。いろんな人に見に来てもらいたいということに関連して、先ほど二丁目からもSNSで発信したいという意見も出ていましたが、一番効果があるのはSNSじゃなくて、やっぱ

り口コミで対面なんですよ。対面で伝えて、一緒に行こうというのが最も強くて、そこに、言えるだけの人間の関係性がいくつ作れているかということが、イコール地域力そのものになると思います。その関係をつくるために、顔を合わせることから始めましょうということがないと、なかなか次のステップにいかないような気がします。村井先生、どうですか。

村井教授：もう、本当に今までの話が全てでして、やっぱり「顔の見える関係」「ふだんから触れ合う機会」をつくるというのが一番だと思います。ただ、先ほどからあるように、その情報がなかなか流れないということ言えば、今ここに来ている役員の方たちの相互交流を深めて、お互いの活動を発信し合って、相乗りでやっていくという、今日のイベントそのものを、これからも継続して、オール虹ヶ丘で話し合う機会を継続していくことが、すごく大事だと心から感じております。

平成30年からの取組で、それぞれの活動は、お互いに見えてきているとは思いますが、相互交流はこれからも進むと思いますし、桜祭りなどの共通基盤もあり、おやじの会さんなどが、しっかりと横つなぎをしてくれているところなので、そういったところを充実させて、引き続き情報を一元化しなくちゃいけない。

SNSという言葉も出てきましたが、虹ヶ丘が今、どういう状態になっているか、虹ヶ丘で何が起きているのかを知る機会というのは、役員レベルから始まって、できれば今度は住民レベルで情報共有ができる体制として、どこかで情報を集約するということは、これから必要になってくるかなと感じています。

でも、やはり口コミに勝るものはないと思うので、こういったことを語る機会を、それぞれの地域の中でつくっていく。だから、今日のこういう活動も、ここから誰に伝えていくのかということが大切で、今日、参加してくださった方が、ぜひ周りの人たちに「こんなことがあったよ」という口コミを広げていただきたいなど、強く思っているところです。

市長：ありがとうございました。お互いに繰り返しの話になってしまいますが、議論や共有だけでは次の動きにつながらないところもあると思いますので、こういう圏域会議という場を通じて、役員の皆さんの意識を合わせていくという段階から、今度はもう少し次の段階にとしての具体的な取組につながるための、今日が一つのステップになればありがたいなと思っております。

そろそろ時間になってしまいますが、まだ、お話になっていない方が、たくさんいらっしゃると思いますので、関係者として、唯一の地域の小学校から校長先生に来ていただいていますので、一言お願いできますか。

今野さん：虹ヶ丘小学校の校長の今野です。本日は、ありがとうございました。

来年から、地域に開かれた教育課程づくりというのが大事な目玉となっています。そこで、ここにいらっしゃる方々もそうですが、虹ヶ丘の地域の人材を使って、学校教育によりうまくマッチングした教材等をつくっていかうかと考えています。

私は、夢のある、希望が持てるような、そんな学校をつくりたいなと思っています。ですので、子どもたちが、そういった教育を受けた中で、また、この地域に戻ってきて、この虹ヶ丘が大好きだというような、そんな持続可能な教育ができればいいなと思って、職員一同、また、ここにいらっしゃる地域の皆様、保護者の皆様と一緒に力を合わせてやっています。

市長：ありがとうございました。今日は、場所の提供も含めて、本当にありがとうございました。やっぱり、この虹ヶ丘小学校は地域の核となる場所ですし、隣の公園もそうですけれども、虹ヶ丘の中心にな

るところですから、ぜひ、協力をお願いしたいと思っています。

それでは、時間になりましたが、区長から、次の圏域会議の思いも含めて、少しいいですか。

区長：ありがとうございます。麻生区長の多田でございます。本日は、このようなすばらしい高い意識を持った皆さんがたくさんいらっしやって、本当にこのまちを愛して、より良くしようというような思いが、とても伝わってまいりました。

皆さん、お話に出ておりますように、やはり、顔の見える関係、「サザエさんのまち」、とてもすてきなと思いました。本当に、ちょっと顔見知りになって、ご挨拶から始めて、それから少しずつ、いろんな情報交換が始まって、そして、実際に行動に結びついて、いろんなイベントに育っていくんだなということを改めて感じまして、この虹ヶ丘地区というのは、実際にそれができるところであると感じたところです。

また、今回は、2月に予定しているということを伺っていますので、その折には、皆さんで、ぜひ、今、市長からお話がありましたように、一歩進んだ形での取組として、形に現れることを期待しています。

市長：本当にありがとうございました。いろんな課題が、たくさんあると思いますが、課題があるということは、まだ伸びしろがあると前向きに捉えて、みんなで頑張っていきたいなと思いますので、これからも、この圏域会議を通じて、高め合っていくという取組を、皆さんに御協力をお願い申し上げまして、車座集会を終わらせていただきたいと思います。

本日は、誠にありがとうございました。